

V 小学6年生アンケート結果

目 的：みのかも文化の森（以下、文化の森）という「博物館」を活用した学習活動をとおして、子ども自身の学び（以下の3点）がどのように身についたのかを調べるため。

（1）博物館「人・もの・こと・場」からどのようなことを感じ、学んだのか。

（2）子どもの関心はどのような活動内容にあり、指導の方法（講義、体験など）によっているのか。

（3）子どもにどのような力が定着し身についてきたのか。

対 象：美濃加茂市立全小学校の第6学年全児童

アンケート調査期間：2025年12月18日～2026年1月30日

回答率：81.7%（回答数518件、2025年12月1日現在在籍6年生634名）

アンケート方法：オンライン回答

アンケート窓口：文化の森活用委員の先生方

（本アンケート開始年度：平成17年度（現行の内容は平成18年度から））

考察のキーワード：

a **知識・技術**：新しい発見や学び・気づき。

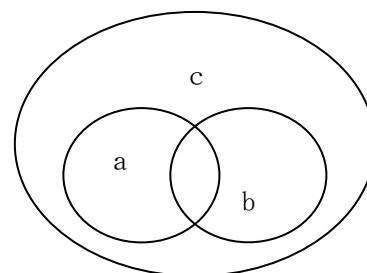
普段の学校の授業とのつながり。

B **心・関心**：博物館の「人・もの・こと・場」への想い。

思考・判断・表現など気づきや知識からさらに得たこと。

C **行動の広がり・発展**：博物館や社会・生活との関わりを積極的に持とうとすること。

主体的に学習に取り組む態度



本アンケートは、6年間の文化の森学習の中で子ども自身の学習やものの見方、行動などにどのような影響があるのかを調べるものである。なお今年度は、例年の考察のキーワードの内容と小学校での評価の観点と合わせて、どのような力が身についたのかを考えていきたい。6年時理科「大地のつくりと変化」を例に児童の実際の記述を挙げながら説明すると以下ようになる。

「a」：大地のつくりには、水のはたらきと火山のはたらきがあることが分かった。

「b」：化石林公園は、何回か行った事はあるけど、そこに化石が今もあるというのは知らなかったので、すごいと思った。

「a∩b」：火山でできた地層とか水でできた地層（はたらき）とかは、教科書でしか見たことがなかったので、本物を見た時はびっくりした。

「c」：「大地のつくりと変化」の学習で化石林公園に行った時、たくさんの石を見ました。それから、他の博物館に行ってもっといろいろな石を見ました。

以下、引用した児童の記述について、考察のキーワードを元に分類を行った。引用後の（ ）内にある英数字はこのキーワードによる分類である。2つのキーワードにまたがると読み取れる記述は、2つのキーワードを並列で記載している。

なお、本考察では、子どもの記述を引用、抜粋しているが、その記述の中にある明らかな誤字等の誤りは訂正し、個人が特定されるような内容については一部分引用を控えた。

◎項目 1「小学校 6 年間の文化の森での学習の中で、印象に残っているものとその理由を教えてください。」（a 知識・技術 b 心・感性 c 行動の広がり・発展）

項目 1 については、1 年から 6 年までの学習活動内容を挙げ、その中から印象に残っている学習を選択してもらい、その理由を記述式で回答してもらった。低学年、中学年、高学年の 3 つの学年に分け、それぞれの活動での学びを考察のキーワードをもとに分析する。

なお、各校の結果は、表「文化の森学習で印象に残った学習活動（学校別）」（p 138）に記載のとおりである。

【低学年（1・2 年時）】

低学年の教科は生活科が主となるが、国語や図画工作など他の教科と合わせて実施している。学習指導要領における生活科の目標には、「地域・社会との関わり」「自然とのふれあい」「自身の成長」などがある。これらを達成できるよう、季節の植物や行事等にあわせた授業や公共施設としての利用などに重きを置いて授業を実施している。

表 文化の森での学習活動で印象に残ったもの（低学年・市内全校まとめ）

学年	教科	学習活動内容	実施校	割合※
1 年生	生活科	「たのしいあき いっぱい」	8	28.9%
	国語	「たぬきの糸車」		
	生活科	「むかしからつたわるあそびをたのしもう」	6	30.7%
2 年生	生活科	「はるのずかん」他	6	5.3%
	生活科	「みんなでつかうまちのしせつ」	4	19.5%

※割合は、各校の全回答数における割合を実施した学校で平均したもの

（1 校のみの実施や、継続性のない活動などは割愛した）

1 年時：生活科「たのしいあき いっぱい」（10 月－11 月実施）

「1 年生にやったことだけど、6 年生になっても覚えているのがいちばんの理由だし、その中でヘリコプター作りは飛ばすのが楽しくて、家に持って帰ってもまだ、ワクワクしていたから、選びました。」（蜂屋小 b）

「初めての遠足は文化の森！どんぐりたくさん見つけた時にすごいね！と褒めてくれたことがとっても嬉しかった記憶があります！」（加茂野小 b）

「みんなで楽しく家を作りました！木の匂いがして新鮮でした。」（山手小 ab）

1 年時：国語科「たぬきの糸車」生活科「むかしからつたわるあそびをたのしもう」（1 月－3 月実施）

「本当にその話のなかに入った感じがして、楽しかったから。」（古井小 b）

「『たぬきの糸車』のお話は私が 1 年生の頃、一番好きだったお話です。文化の森で朗読を聴いたり、糸車体験をしたり昔から伝わる遊びを楽しんだり昔の生活がよく分かりました。」（蜂屋小 a）

2 年時：生活科「はるのずかん」他（4 月－7 月実施）

「いろいろな、植物を見たり触ったりして楽しく春の森ビンゴをした事が印象に残っています。植物の葉っぱはその木によっていろいろな形があったり、自分の顔ぐらいの大きい葉っぱとかを発見したのを覚えています。」（太田小 a）

「森の中でさくひんを作って、色んな木の種類があることにびっくりした！」（山手小 b）

2年時：生活科「みんなでつかうまちのしせつ」（9－12月実施）

「みんなでつかうまちのしせつ」で当時の私は何でこのようなものがあるのだろうと思っていたが、今は点字ブロックを活用している人がいてこの為だったんだと今は思っています。」
（下米田小 bc）

低学年の授業は記憶から一番遠い活動であるものの、印象に残っている活動として多くの児童が挙げている。どんぐりごまや森での活動など、「自然とのふれあい」が印象に残っている記述が多くあり、当時の気持ちや香り、音など鮮明に覚えているという記述があった。普通の授業では自然の中に入り活動することが難しいため、より印象に残っていると考えられる。この活動は文化の森ならではの活動であるため、今後も継続して行っていきたい授業である。また、文化の森活動は小学校に入って初めての校外授業・地域の人と関わる機会になる場合も多いため、「地域・社会との関わり」を学ぶ場としても活用していただきたい。

【中学年（3・4年時）】

中学年になると、社会科や理科の学習が始まる。低学年での学びをもとに、専門的な内容の学習となる。学習指導要領における社会科の目標には、「地域の地理的環境」「地域の様子と移り変わり」「社会的事象の見方・考え方」などがある。特に文化の森では博物館に寄贈された実物を教材として用いたり、自分で観察する・考える時間を大切にした授業を行ったりしている。また理科の授業では、地域に生息する昆虫の標本・本物の卵や幼虫を観察するなど、実物を観察することを重視して授業を実施している。

表 文化の森での学習活動で印象に残ったもの（中学年・市内全校まとめ）

学年	教科	学習活動内容	実施校	割合※
3年生	社会科	「わたしのまち みんなのまち」	6	18.4%
	理科	「チョウを育てよう」		
	社会科	「市のうつりかわり」	6	35.5%
4年生	社会科	「きょう土をひらく」	9	9.5%

※割合は、各校の全回答数における割合を実施した学校で平均したもの

（1校のみの実施や、継続性のない活動などは割愛した）

3年時：社会科「わたしのまちみんなのまち」 理科「チョウを育てよう」（5月－6月）

「美濃加茂市のいつもは見れない遠くの景色まで見れた事。」「みんなで一緒にタワーに登ったのが楽しかった。」（伊深小 a）

「沢山の蝶の標本などを見た。幼虫がとても小さかった」（三和小 a）

3年時：社会科「市のうつりかわり」（12月－3月）

「みんなで冷たい！寒い！と言いながら自分の雑巾を真冬に水を使って洗ったのが思い出に残っています。初めてマッチを使ってみたし初めての体験もいろいろありました。」（山之上小 a）

「自分たちで洗濯板を使って洗濯ができたことが昔の人の気持ちを感じることができて楽しかったです。あと班のみんなで餅を食べることも班のみんなでやったからこそより楽しかったです。」

（加茂野小 bc）

「昔の人たちは、いろいろな大変さがある中生活していた。実際に洗濯板で洗濯体験をしてみたら1枚だけなのに大変だった。」（下米田小 b）

4年時：社会科「きょう土を開く」（9月—12月）

「ため池まで実際に歩いていったのでとてもウキウキしていきました。今でもいけを通り過ぎる時にため池を見ながら通っています。」（蜂屋小 bc）

「ため池作りの土を運ぶのが大変で昔の人は大変だったんだろうなと思った。せんつき（土を固めるやつ）が3人で持ち上げてもすごく重かったのでびっくりした。」（山手小 ab）

中学年の授業の中で圧倒的に印象に残っていると回答した児童が多い活動が「市のうつりかわり」である。この授業は一日かけてむかしのくらしを体験する活動的な授業のため、印象に残っている児童が多いと考えられる。また、この授業はグループで活動するものが多く、「班のみんなと協力してできた」「みんなでやったからこそ楽しかった」という意見も多く挙げられた。仲間と協力する力やコミュニケーション力が身についたのではないかと考えられる。

「きょう土を開く」の授業では、学校別でみると山手小、太田小、蜂屋小の数値が他の学校よりやや高い（p 参照）。この3校は太郎八さんの活躍した地域に近く、自分たちが住んでいる地域との関連づけながら授業を受けることができたためより印象に残っているのではないかと考えられる。地域に関連した授業を今後も実施していけるとよい。

【高学年（5・6年時）】

高学年の学習は、低学年・中学年で学習と連結し、さらに専門的な知識を深めていく時期ともいえる。学習指導要領における社会科の目標には、「社会的事象の相互関連、多角的に考える」「考えたこと、判断したことを議論する」理科の目標には「生命・地球に関する連続性や規則性」「仮説をたて解決する」などがある。自分たちの住む地域にも、教科書と同じ長い歴史が続いていることを感じさせる証拠や、地球のエネルギーを証明するものが数多く存在することを知り、壮大な歴史や地球の変化を感じることができる授業を実施している。

表 文化の森での学習活動で印象に残ったもの（高学年・市内全校まとめ）

学年	教科	学習活動内容	実施校	割合※
5年生	理科	「流れる水のはたらき」	8	14.5%
6年生	社会科	「縄文のむらから古墳のくにへ」	7	51.3%
	理科	「大地のつくりと変化」	5	47.2%

※割合は、各校の全回答数における割合を実施した学校で平均したもの

（1校のみの実施や、継続性のない活動などは割愛した）

5年時：理科「流れる水のはたらき」（9月—11月）

「侵食などのはたらきを教科書ではなくて実際に見れてよかった。チャートをきっかけに石を好きになった。」（山手小 ac）

「川をいろんなところで見た時、川の大きさ、早さ、水の綺麗さ、水の色などを見てたくさん話を聞いて、たくさんメモをとった覚えがある。石の大きさも確かめて川を流れる水の特徴を知ることができた。」（太田小 a）

6年時：社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」（4月-6月）

「時代によって土器のツルツルさとか形の良さとかがわかった。縄文土器作るのがむずかしかった。」（山之上小 a）

「縄文時代の土器や家を見て縄文の村にきたみたいに感じることができとても印象に残りました！縄文土器で写真だけじゃ分らなかったことも実物を見てくっきりと模様が入ったり、分厚くて頑丈なことも分かりました！」（古井小 ab）

6年時：理科「大地のつくりと変化」（11月—1月）

「地層にはさまざまな石があり、さわって見るとざらざらしていたりゴツゴツしていて面白いと思った。岩石を観察してそれぞれの岩石の名前をして、もっといろんな岩石が知りたくなった。」（下米田小 bc）

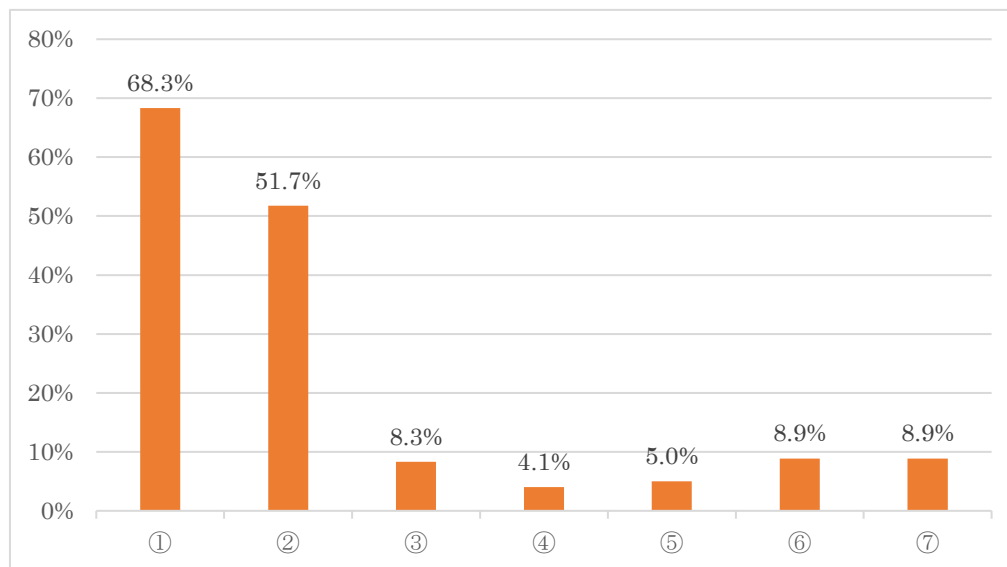
「地層がどのように出来たか分かったし、火山のはたらきと水のはたらきで出来た二層に分かれている地層を初めて見れた事。化石を探した事。」（伊深 a）

高学年の授業は記憶に新しいこともあり、多くの児童が印象に残っていると回答している。記述の内容を見ると、「チャートをきっかけに石を好きになった」「もっといろんな岩石が知りたくなった」など、児童の行動の広がりが見られた。また、考察の分類が高学年になるにつれて複合的になっているものが増えている。「わかった」「思った」だけでなく、その先の考え・学びに発展しているのは主体的な学びが身についている証拠だと感じた。

項目2については、文化の森活動の後、学校の授業以外での文化の森、家庭、地域、他の施設や博物館との関わりを尋ねたものである。

◎項目2「文化の森活動のあとに行ったことがあれば具体的なエピソードと一緒に教えてください」（c行動の広がり・発展）

グラフ 文化の森での学習活動の後におこなったこと（市内全校まとめ）



- ①文化の森で学習したことを、家族に話したことがある。
- ②文化の森に、遊びに行ったことがある。
- ③学校の授業以外で確認したいことがあり、文化の森へ行ったり、文化の森の人に質問したり、話を聞きに行ったことがある。
- ④文化の森で聞いたことや調べたことを、夏休みの研究などにいかしたことがある。
- ⑤化石林公園や木曽川などでの学習の後、もう一度家族などでそこを訪れたことがある。
- ⑥文化の森での学習をきっかけとして、他の博物館や美術館に出かけたことがある。
- ⑦文化の森のホームページを見たことがある。

7割程度の児童が文化の森学習の内容を家族に話したことがあると回答した。記述した内容を見てみると「縄文時代の衣服の触り心地の話」「分かったことと分からなかったこと」「チョウのたまごの小ささ」「地層の手触り、岩石の重さ」など非常に具体的に書かれており、学びや感動を家族に伝えることでさらに記憶に残る活動になるのではないかと考えられる。

また、「土器片を見つeketくて文化の森に行った」「家族に化石を見せたくて木曽川にいった」「みんなより先に見たくて授業の前に訪れた」など、学びの延長として文化の森や他施設を訪れる児童もあり、主体的に学ぶ姿が見られた。

◎項目3「文化の森で学習したことにより、自分にどんな力がついたと思いますか」
(a 知識・技術 b 心・感性 c 行動の広がり・発展)

項目3は、文化の森での学習を通じて、児童自身が自分に身についたと思う力を記述する項目である。例年どおり、以下の3つに分類して回答内容を記載する。

【教科や学習の理解や関心の深まり、学習意欲の向上】

「昔と今の生活で比べる力がついた。」(太田小a)

「地層のことについてわかったから、自分が立っている、地面の下について想像する力。」
(蜂屋小b)

「見る力、話を聞く力。」(加茂野小a)

【関心の広がりや自主学習への発展、培った知識などが活きている喜び】

「実在した人が建てたものや実物があって、授業で習ったことだけでなく、そこにいた人たちが考えていたであろうことを考えようとする気持ちにつながった。」(太田小b)

「授業でわかんなかったことを文化の森学習で疑問が新しい発見になったりすることができたし授業で習ったことも復習できて復習の力がついた。」(加茂野小a)

【普段の生活に変化があったり、他者との関わりを考えたり生き方に活かそうという思い】

「仲間との協力やもっと授業に興味を持てたこと。」(蜂屋小c)

「川の勉強をして、川の流れや川の働きについて分かった。だから、川に行くときにどこの場所が危険なのかが分かるようになった。」(古井小c)

「今の過ごしやすさが当たり前ではないと気付かされたこと」(古井小c)

「わかった」「理解できた」という知識から、さらに「比較できた」「想像できた」という思考・判断の力が身についたという回答が多くあった。また、教科の学びにとどまらず、「協力する力」「私生活での活用する力」など発展的な回答も多くあった。

この項目の回答を見ると、多くの児童が過去の学習を振り返り自分自身を評価することができており、客観的な視点で自己を見る力が育っていると感じる。この自己評価ができる力はさらに自分自身を成長させる力につながるのではと考えられる。

◎項目4「文化の森ではこんな活動もできるだろう、こんな学習をしたいな、こういうことをすると学校の授業がよくわかるかも、と思うことがありましたら、その理由も合わせて教えてください」(b 心・感性)

項目4については、文化の森での学習経験を振り返り、自分の学びを深めるにはどんな授業だとよいか意見を募ったものである。以下の分類別に回答内容を記載する。

表 項目4 回答(一部抜粋)

「文化の森について」 (13件)	文化の森がなぜ作られたのか、展示品はどのように文化の森まで届いたのか、もっと見たかった展示について、など
「美濃加茂市のこと」 (7件)	美濃加茂市の取り組みについて、タワーからの街の観察、美濃加茂市の歴史・ゆかりある人について、など
「昔のこと」(29件)	今までの授業では取り上げてないもの(電車、機械など)について、まゆの家で昔の生活をしたい、など
「歴史」(18件)	遺跡や遺物について、土器づくり、自分たちの歴史ノートを見てほしい、など
「環境」(76件)	環境を守る取り組み、絶滅危惧種について、動植物とのふれあい、など
「福祉」(4件)	障害者スポーツ、施設の工夫みつけ、など
「災害」(5件)	自然災害について、防災について、など
「理科」(19件)	化石、地層、カニサイ、河川の石、天体、物理など
「授業方法について」 (26件)	学校ではできない実験・体験をする、班活動を増やす、朗読、クイズ形式、宝探し、自由見学、スタンプラリー、など
「図画工作」(6件)	陶芸、自然のもので工作(石に絵を描くなど)
「その他」(7件)	絵画、SDGs、お菓子作り、海について、算数、職業(大工)、今度のこどもに伝える活動、など

この項目では児童の興味・関心について知ることができる。回答の件数が圧倒的に多いものが「環境」についてである。とくにその中でも「環境を守る取り組みはあるか知りたい」という回答が多かった。文化の森学習の中では取り上げていないテーマのため、学校での学びを文化の森でさらに深めたい、という意見であると考えられる。他にもそういった回答は多く、文化の森学習で取り上げていない教科・単元も多く上げられた。「学校の授業と文化の森の授業をつなげて学びを深める」という意識が児童にもあることが分かる。

その他に「授業方法について」の回答も多くあった。レクリエーション形式の活動はあるものの、さらに趣向を凝らした活動を行っていききたい。また、「見る・触るだけでなく体験したい」という回答も多くあった。実物を使った授業は多く行っているが、児童としては「実際に使ってみたい」「動かしてみたい」という気持ちがあることが分かった。使ってもよい道具を今後準備し、より主体的に学べる環境を整えたい。

◎項目5「文化の森での思い出や伝えたいこと、文化の森に対するみなさんの想いを教えてください。」(a 知識・技術 b 心・感性 c 行動の広がり・発展)

項目5については、文化の森での思い出や伝えたいことを自由に記述する項目である。他の項目とは違い、手書きで記入してもらった。児童の書いた文字からより想いを感じるため、この項目のみ手書きで記入してもらった。いくつかの項目に分けて印象的なものを紹介する。

【体験学習に対する印象、成果を実感する気持ち】

「小さいころ（1、2年生くらい）カニサイや入口のやつでしか遊んでいなかったけど、大きくなって『こんなすごいのもあるんだ！』『え、これ本物！？』などとおもうようになりました。今までみてなかったところもまた行ってみたい！と毎回思っています！いつも案内してくださりありがとうございました！」（古井小 ab）

「文化の森を6年間たくさん使わせていただいととても感謝しています。いろいろなことを実際に見て学ぶ大切さを知れました。文化の森が美濃加茂市にあってよかったと今は思います。」

（蜂屋小 ab）

【学習中の忘れられない思い出】

「私たちの世代ではコロナが大流行しており、『みんなでごはんを食べる』という経験がなかなかできませんでしたが、文化の森で食べたお弁当がとてもおいしかったのを覚えています！」

（古井小 a）

「文化の森は大好きです。文化の森での行動時間が短くて、帰るときには『まだいたかったな』という思いと、『楽しくて疲れた』という思いがいつもあります。来年に文化の森に行けなくなるのはさみしいですが、一生文化の森を忘れません。（加茂野小 a）

【文化の森という施設や関わった人たちへの思い、文化の森とのこれからの関わり方】

「私の一番の思い出は二年生の「春のビンゴ」がとても楽しかったです。みんなでビンゴしながら森の植物を知れたりして、とても楽しい企画をしてくださりありがとうございました。優しく接してくれたりもしてとてもうれしかったです。」（太田小 a）

「校外学習などで文化の森に行くときは楽しみでわくわくしていて、いろんな体験ができて、先生方もやさしくてとても楽しかったです。1か月に1回くらい、文化の森にいつて何かの体験をするイベントも参加したけど、とても楽しかったです。（五平餅作りなど）」（下米田小 a）

感謝の言葉やこれからも文化の森に関わろうとする気持ちを表現した言葉が多く見られた。また、印象に残っている職員の名前を挙げていたり、詳細な思い出を綴ったりしているものもあり、文化の森や学習活動に対する前向きな気持ちがほとんどであった。児童の温かい言葉を受け止め、今後も児童にとってよい活動になるよう尽力していきたい。

まとめ

今回のアンケートから、各学校の協力を得て、これまでの個別記述式からオンライン回答方式へと変更した。2021年度に市内全域の小学校において、ひとり一台の貸与となったタブレットは、実に様々な利用がなされている。いくつか見学させていただいた授業の様子だけでも、単純に調べものに利用するだけでなく、タイピングの練習やプレゼンテーション資料を作成するといったことから、自分の発表の様子を動画に撮って客観的に発表方法を見直すといったことなど、利用の幅は大変広いと感じた。それと同時に、学校側の設備も整っており、各教室に充電や保管用のタブレット庫が設置されていたり、教室前面には黒板に投影できるように大型プロジェクターが導入されていたりした。

アンケートの設問や内容については変更せず、児童が使用しているタブレットで回答ができるように回答フォームを作成したところ、結果として昨年度までと大きく変わらない回答率となった。初めての試みであったため運用方法や集計方法がスムーズではなかった点もあったかもしれないが、翌年度以降もオンライン回答方式を取り入れ、よりよい方法を模索していきたい。

さて、アンケートの項目の中で、項目1「小学校6年間の文化の森での学習の中で、印象に残っているものとその理由を教えてください。」という項目がある。各学年における考察は上述のとおりであるが、全学年を通して見ると、より記憶に残っているのは実体験を通して学びを得た授業であるように見受けられる。低学年においては、どんぐりごまを作ったり、森の中を散策して葉っぱを見つけたり、自然とのふれあいがより鮮明に記憶に残っている記述が確認でき、中学年・高学年になると、冷たい水を使いながら洗濯板で昔の洗濯をする体験や、土器や地層の手触りを確かめてみたことなど、五感を使った表現が確認できる。実体験を通してその内容が児童の思い出として記憶に定着していることがよく分かるアンケート結果となった。

当実践集の『「みのかも文化の森」の学校活用』(P.5,6)には、下記の記述がある。

文化の森にある「本物」。例えば、四季おりおり姿を変える自然、太古の人々が住んでいた証である遺跡や遺物、自然と一体化した彫刻、いろいろな経験や知識のある人々。それらの素材を使い、学校ではできないことを体験します。体験を通じて感じたことそのものが学習であると考えます。おもわず口をついて出たつぶやき、友だちやボランティア、学芸員と話したことやその人々との関わり、これらの積み重ねを大切にしていきます。そのような新しい学習や教育のあり方を築いていきたいと考えます。

みのかも文化の森には様々な「人・もの・こと・場」がある。文化の森にある「本物」に触れることで得た気づきは、おそらく教科書で見たり、タブレットで調べたりしただけでは得られないものであっただろう。

タブレットにはタブレットの良さがあるが、実体験にも実体験の良さがある。学習担当の今後としては、タブレット教育が進んでいるという前提も踏まえつつ、「本物」に触れるという価値をどう学校活用に落とし込んでいくかということを改めて検討していくことだと考える。

この学校活用を通して、みのかも文化の森という博物館にある様々な「人・もの・こと・場」を活用して、多くの児童・生徒に実体験の良さというものを味わってもらえたらと願うばかりである。

アンケートの考察：孝森 亜美
まとめの文責：高木 怜